



わが家では、毎年お
おみそかの前に、お
じいちゃんの住んでいる
トートナーの大掃除をし
ています。それを会社の同
僚から「旧暦七夕以外に
トートナーを掃除する
と、そのお家は滅びるよー」
と注意されました。わが家
のおばあちゃんは特に気に
する様子はありませんが、
本当にわが家は滅びてしま
うのでしょうか？

(糸満市・Hさん・40代・女性)



トートナーのお掃除
のご質問、沖縄のしき
たりとしてとても大切なこと
ですよ。どのタイミングで
トートナーをお掃除したら
いいのか、昔話を交えてわか
りやすくご説明いたします。

沖縄の祭具・仏具の清掃や
交換の日取り

以前からよくいただくご
質問に「ヒヌカンのカミウコー
ル(白色の香炉)の灰がいつぱ
いになったら、いつ取るのが正
解ですか？」とか「お仏壇の
ハナウコール(紺色に金の花の
香炉)が割れたら、いつ交換
するのが正解ですか？」と尋
ねられることがあります。
365日いつでも大丈夫なよ
うですが、沖縄のしきりに

詳しい先輩方のお話を総合
すると、概ねヒヌカンのカミウ
コールの灰取りは、旧暦12月
24日の御願解き(ウグワンブ
トゥチ)。お仏壇のハナウコー
ルの交換は、旧暦7月7日の
七夕(たなばた)が最善だと
判断されることが多いよう
です。

これは、ヒヌカンの御火之
神加那志前(ミーヒヌカンガ
ナシメー)という神様が、親
帝(おやみかど)の玉皇大帝
(ぎょくこうたいてい)のもと
にお帰りになる旧暦12月24
日を畏敬して祭具を清掃や
新調したり、あの世(グソー)
のお休みである旧暦7月7
日を畏敬して仏具を清掃や
新調する慣習によるためだ
といわれます。

日取りを限定する

エピソード

では、なぜこのような清掃
や交換など、祭事・仏事に日
取りが定められるようになった
のでしょうか？

由来の真偽は確かであり
ませんが、その昔、中国にと
ても親不孝な若者がいたの
だそうです。父に先立たれ、
女手二つで息子を育てた母も
他界。その母の通夜に若者は
母の供養も行ふことなく、い
つものように賭場へと向かい、

お酒を飲みながら賭け事に
没頭していました。その話を
伝え聞いた親戚の賢者は、若
者に向かい「自分で働いたお
金で賭け事をするのは自
由だが、せめて月の新しくな
る旧暦1日の新月と、月の満
ちる旧暦の15日の満月だけ
は、月の恩恵に感謝をしつつ、

自らの親の御恩にも感謝を
しなさい」と諭すのでした。
たまたま新月であったその
夜、若者は急いで帰り、母の
お棺と添い寝をした時に見
た夢の中で、在りし日の母の
姿が走馬灯の如く思い出さ
れます。いつしか若者は賭け
事に没頭していた自分を恥
じ、育ててくれた母への供養
の大切さを知るのでした。

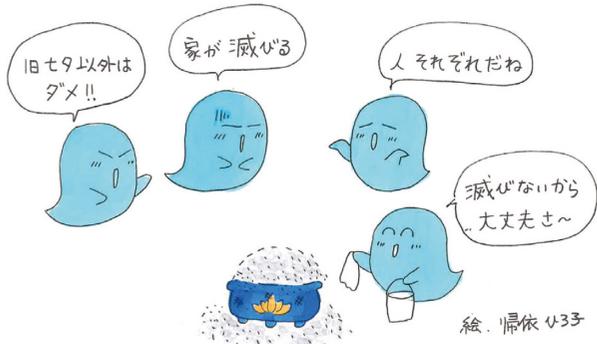
この親不孝者から親孝行
者へと変わった若者の姿を見
た人々は、旧暦1日と15日の
大切さを知り、それ以来、多
くの祭事・仏事や年中行事に
もこのような日取りを定め、
折々の神仏を敬うようになっ
たといえます。

この考え方からすると、会
社の同僚の方が言った「旧暦
七夕にトートナーの掃除を
する」ということは、旧暦1
日と15日の例と同様、先人に
より定められた日取りとい
う点でとてもありがたいアド
バイスになります。

一方、親孝行に気づかなかつ
た若者への諭しという原点で
考えてみると、旧暦1日と15
日はもちろん、その日以外で
も思い立つときは親孝行と
同様、旧暦七夕以外でもト
ートナーをお掃除してもよい
ということになります。

どちらにせよ、今まではご
供養する習慣がなかった方々
に対しての「せめて旧暦1日
と15日だけは、ウチャトーを
お供えしたり、焼香しなさい」
との諭しなのでしょう。

アドバイスくださった会社
の同僚の方には感謝しつつ、
今年も毎年恒例の年末の
トートナーの大掃除、ぜひ
頑張ってください。



絵: 帰依 433